

沖縄の海で タイムスリップ?

江戸時代の通貨
「寛永通宝」を拾う

文・写真

東 真七水

text & photo by Manami Azuma



「スキューバダイビング×ゴミ拾い」水中ごみ拾いを専門としたダイビングショップ「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングインストラクターを務める東真七水です。海底に沈んだゴミを楽しみながら回収し、水中ゴミ拾いをマリンアクティビティとして広める活動をしています。

海に眠っている「アブリ」たち

海中ゴミの中で圧倒的に多いのがプラスチックゴミです。ペットボトルやビニール袋などの使い捨てプラスチックは、何気ないポイ捨てにより公共ゴミとなり、雨風に飛ばされることで最後は海へと流入します。ただ時折、希少性の高いゴミ「レアゴミ」を見つけることがあります。例えば、半世紀前に流通していたと思われるビール缶やジュース瓶など、自分よりも年上のゴミに出くわすのです。それだけでも非常に貴重な一品ですが、先日ついに江戸時代に流通していた貨幣「寛永通宝」を発見しました。場所は沖縄本島の嘉手納町

に面する水釜というポイントで、水深約10mの海底に落ちていました。ちなみに水釜は、これまでに何度も水中ゴミ拾いで訪れており、毎回似たようなルートで回るのですが、寛永通宝を拾ったのはこの時が初めてでした。

海のアブリの出会い

一期一会、一期一会

水中ゴミ拾いを続ける中で気付いたのは、台風や大雨の後に数十年前のゴミが出てくる場合が多いということ。ちなみに台風には海をかき混ぜる効果があったり、大雨には地表を削ったり、水量や流れを増す効果があります。海中のゴミは砂中に全身が埋まっているもの、岩などの下敷きになり隠れてしまっているものが多いと感じますが、今回もそのようなゴミがさまざまな影響で偶然出てきたのでは、と推測しています。もしもこの仮説が当たっていれば、海の中には数十年〜数百年前のゴミがまだたっぷりと眠っている可能性があります。

今年に入ってから回収で



半世紀前に流通していたと思われる水中ゴミのコレクション

きるゴミの量が随分減少し、これまでの活動成果を感じているものの、まだ見えていない面白いゴミたちが今後もあるのかもしれない。一筋縄ではいかないゴミとの出会いを大いに楽しみなが、これからも活動していきたいものです。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
[Dr.blue ウェブサイト]
www.dr-blue.okinawa

